

金沢城公園

玉泉院丸庭園



休憩所「玉泉庵」

江戸時代に露地役所(庭の整備管理に関する役所)が置かれていた場所に、庭園を一望できる休憩所「玉泉庵」を整備しました。休憩機能だけでなく、案内所や呈茶サービスを提供する和室を併せ持った施設です。和室は、本格的な茶会などに利用できます。



和室からの眺め

開園日 年中無休

開園時間 3月1日～10月15日 午前7:00～午後6:00
10月16日～2月末日 午前8:00～午後5:00

「玉泉庵」呈茶サービスの実施日・営業時間

1月4日～12月28日(年末年始休業)
午前9:00～午後4:30(受付は午後4時まで)



抹茶(生和菓子付)…1000円
※貸切利用時など呈茶サービスを休業する場合があります。
事前にお問い合わせください。

夜間開園(庭園や石垣のライトアップ)
日没～午後9:00(土曜日及び指定日)

交通アクセス

路線バス

JR金沢駅
兼六園口(東口)乗車
「広坂・21世紀美術館」
バス停下車 徒歩5分
「香林坊」
バス停下車 徒歩7分
「南町・尾山神社」
バス停下車(尾山神社経由)
徒歩5分

タクシー

JR金沢駅から約10分



お問い合わせ先

石川県金沢城・兼六園管理事務所

〒920-0937 金沢市丸の内1番1号 TEL 076-234-3800 FAX 076-234-5292
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou>

江戸時代末期の玉泉院丸



嘉永3年(1850)「御城分間御絵図」(公財)前田育徳会蔵

年表(玉泉院丸に関連する主な出来事)

- | | |
|-------------|---|
| 天正11年(1583) | 前田利家が金沢城に入城 |
| 天正～慶長頃 | 一帯は西の丸と呼ばれ、重臣の屋敷が置かれた |
| 慶長19年(1614) | 二代藩主利長正室の玉泉院の屋敷造営 |
| 元和9年(1623) | 玉泉院逝去し、屋敷を撤去
(この後、玉泉院丸と呼称) |
| 寛永9年(1632) | 辰巳用水を開削し城内に引水 |
| 寛永11年(1634) | 三代藩主利常が京都の庭師剣左衛門を招き作庭 |
| 延宝4年(1676) | 五代藩主綱紀が蓮池御殿を造り周辺に作庭
(兼六園の始期) |
| 元禄元年(1688) | 綱紀が千宗室に作庭を申し付ける
厩を壊し、亭や露地、花壇を作る |
| 元禄5年(1692) | この頃、氷室を設置 |
| 天保3年(1832) | 十三代藩主斉泰が「カラカサ」亭の設置を命ずる |
| 安政3年(1856) | 玉泉院丸に滝がつくられる |
| 安政5年(1858) | 三十間長屋再建 |
| 明治4年(1871) | 金沢城が兵部省(後に陸軍省)の管轄になる
オランダ人医師スロイスの邸宅が置かれる |
| 明治13年(1880) | 兼六園の明治記念の土台石組に庭石を転用 |
| 明治17年(1884) | 鼠多門焼失 |
| 大正15年(1926) | この頃地跡を埋め立て露天馬場を設置 |
| 昭和30年(1955) | 県スポーツセンター(県体育館の前身)竣工 |
| 昭和40年(1965) | 県体育館竣工 |
| 平成20年(2008) | 県体育館を取壊し、発掘調査に着手 |
| 平成21年(2009) | 県が金沢城玉泉院丸跡調査検討委員会を設置 |
| 平成27年(2015) | 玉泉院丸庭園及び休憩所「玉泉庵」等完成 |
| 令和2年(2020) | 鼠多門・鼠多門橋の復元・整備完成 |

石川県

玉泉院丸庭園案内図

石垣の上部に滝を組み込んだ特別な石垣です。滝口には黒色の坪野石でV字形の石樋をしつらえ、落水の背後には色紙形(方形)の石材に加えて短冊形(縦長方形)の戸室石を段違いに配しています。城郭石垣の技術と庭園としての意匠とが見事に融合した金沢城ならではの傑作とされています。



玉泉院丸庭園は、加賀藩三代藩主「前田利常」による寛永11年(1634)の作庭を始まりとし、その後五代「綱紀」や十三代「斉泰」など歴代の藩主により手を加えられながら、廃藩時まで金沢城内玉泉院丸に存在していた庭園です。饗応の場として活用された「兼六園」に比べ、藩主の内庭としての性格が強い庭園であったと考えられています。

庭園は、城内に引かれた辰巳用水を水源とする池泉回遊式の大名庭園で、池底から周囲の石垣最上段までの高低差が22mもある立体的な造形でした。滝と一体となった色紙紙冊積石垣などの、意匠性の高い石垣群を庭の構成要素とする、他に類を見ない独創的な庭園であったと考えられています。

庭園は明治期に廃絶され、その面影は失われていましたが、平成20年から5年間をかけて実施した発掘調査の成果や、絵図、文献、その他類似事例等に基づき設計を行い、平成25年5月に整備工事に着手しました。

整備にあたっては、遺構保存のため全体的に盛土を行い、その上に庭園を造成しています。また、外周部の石垣修築や入口部の整備など玉泉院丸一帯の整備も合わせて行い、平成27年3月、歴代藩主が愛でたであろう庭園の姿が再現されました。



面積 約 1ha (庭園主要部 0.7ha)
池整備 中島 3箇所、池底・玉砂利敷
(水面面積約1400㎡、平均水深0.6m)
滝整備 4段の段落ちの滝を発掘調査に基づき再現
(高低差約 7m)
水源 ①もり冠から池内に揚水 (最大1t/分)
護岸 木根護岸 (戸室石、能登産山岡岩)、
石積護岸、石積護岸、州浜

木橋 ● 橋長9.3m、幅員2.4m (能登びば材)
石橋 ● 橋長5.0m、幅員1.15m 平橋 - 反橋 (戸室石)
土橋 ● 橋長5.0m、5.5m、幅員1.2m (構造・木材、土系舗装)
景石 ● 福清石、戸室石など19石を絵図に基づき配置
植栽 ● 赤松・黒松(内庫座) 29本、しだれ桜・モジなど
唐傘 ● 高さ2.4m、傘径2.7m (構造・木材、屋根・柿葺き)
舟小舟 ● 高さ2.5m (構造・能登びば材、屋根・杉皮葺き)
玉泉殿 ● 建築面積226㎡ (木造平屋建、屋根・柿葺き)

